

チャペルの窓

待降節 第2週

「クリスマスを楽しむ」

黒田 朔



クリスマスをお楽しみではありませんか・・・と言っても、クリスマスケーキを食べることはありません。私たちはクリスマスを12月25日に祝いますが、世界中がクリスマスを祝うには訳があります。それは天地に創り主である神が、私たち一人ひとり、だから、勿論、あなたをも愛し、その愛の証としてご自身のひとり子、イエス・キリストを私たちの生きる世界に、私たちの生活の中に送ってくださった日だからです。考えても見てください。私たちが神様とは縁のない生活をしていても、神様はあなた一人を決して忘れることはありません。丁度、迷子になった子供が親のことが分からなくても、親は一日だって迷子の子供を忘れることがないように、神様は求め、探し続けて人の歴史の中に介入して来てくださった、それが、イエス・キリストの誕生、クリスマスなのです。

そこで、ここまでお読みくださったあなたが手を止めて「わたしも神様に愛され、覚えられている」のか・・・と思いめぐらして見てください。それが「クリスマスを楽しむ」ことです。次の聖書のことばを思いめぐらし、クリスマスを味わってください。

しかし、シオンは言った。「【主】は私を見捨てた。主は私を忘れた」と。「女が自分の乳飲み子を忘れるだろうか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとえ女たちが忘れても、このわたしは、あなたを忘れない。」(イザヤ 49:14,15)

神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。(Iヨハネ 4:9)